

104-326

問題文

55歳女性。159cm、60kg。卵巣がんにて、パクリタキセル、カルボプラチン、ペバシズマブを用いた外来化学療法を施行している。来院日の臨床検査値から判断して、医師はレノグラステム注100μgを投与して、以下の処方を追加した。

臨床検査値は、体温 37.8℃、白血球数 2×10^3 個/μL、好中球 40%(白血球百分率)、血清クレアチニン値 0.64mg/dL、eGFR 74.0mL/min/1.73m² であった。

(処方)

セフカペンピボキシル塩酸塩錠 100 mg 1回1錠 (1日3錠)
1日3回 朝昼夕食後 5日分

薬剤師はこの処方に疑義を抱いた。薬剤師が行う処方提案として、適切なのはどれか。2つ選べ。

1. セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mgを1回1錠、1日2回朝夕食後にする。
2. セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mgを1回1錠、1日1回朝食後にする。
3. レボフロキサシン錠250mgを1回1錠、1日1回朝食後にする。
4. レボフロキサシン錠500mgを1回1錠、1日1回朝食後にする。
5. シプロフロキサシン塩酸塩錠100mgを1回2錠、1日2回朝夕食後にする。

解答

4, 5

解説

化学療法中の、好中球減少、発熱ときたら発熱性好中球減少症です。これは内科的緊急疾患とされます。早急な、幅広いスペクトラムを有する抗菌薬での治療が求められるため、ニューキノロン系が提案としてよいと考えられます。

腎機能に問題ないため、レボフロキサシンを使用するなら、500mg 1回1錠で使います。耐性菌が出現しづらいため、この用法・用量が推奨されています。

以上より、正解は 4,5 です。